



## TOEFL®メールマガジン Criterion<sup>SM</sup> 関連記事集

18号:元智辯学園和歌山高等学校 レベッカ・ベンワ先生

32号:金蘭千里高等学校 北代晋一先生

35号:慶應義塾湘南藤沢中・高等部 藤田真理子先生

40号:福岡県立香住丘高等学校 永末温子先生

TOEFLは米国エデュケーショナル・テスト・サービスの登録商標です。

国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部

©2005, CIEE All Rights Reserved





今回は前号に引き続き、既にツールを導入している現場より、「利用者の声」として実際の使用例・利点などについて取り上げます。今回は和歌山県の私立智辯学園高等学校の英語科教員であるレベッカ・ベンワ先生に【Criterion】についてご寄稿いただきました。

4月から実施しておりました次世代TOEFL 対応教育支援ツールデモ体験セッションは、好評につき、引き続き8月末まで実施となりました。ぜひ、この機会をご利用下さい。

それぞれのツールに関する詳しいご説明は、[CIEEのホームページ](#)や[TOEFLメールマガジン16号](#)をご覧ください。

Rebecca Benoit (レベッカ・ベンワ)氏 プロフィール



現:私立 智辯学園和歌山 英語科教員

B.A. and M.A. in Cultural Anthropology/Museology from Trent University

B.Ed in TESL/TEFL from McGill University

\* \* \* \* \*

カナダ・ケベック州とメキシコにおいて第二言語としての英語の教鞭をとられ、その後1998年来日。過去5年間は高等学校レベルの教育、特に入試にかかわる英語論文とリスニング分野に携わる。

近年は小学校でも教鞭をとられています。

専門分野はCALL/CAI。(automated assessment of writing, listening and speaking)

【Criterion】-オンラインによるライティング評価ツール-



Criterionとは、オンラインによるライティング自動評価ツールです。ETSは長年の研究およびデータ収集がe-rater®によるライティング評価プログラムの開発に成功しました。

インターネット接続環境であれば、職場やクラス、そして自宅からパスワードによるログオンで安心して自分のペースで学習できます。e-rater®により約30秒以内に客観的フィードバックとともに自動採点を行うプログラムです。米国では発売と同時に中学・高校・大学のライティングの授業と採点に採用されるなど好評を得ています。

自由英作文とCriterion

- Rebecca Benoit(智辯和歌山)

■ 日本におけるエッセイ・ライティング指導

日本における、特に高等学校におけるアカデミック・ライティング指導はかなり困難であり、ある種の挑戦であるといえます。まず、第一の理由はクラスのサイズです。一クラス40名もしくはそれ以上という生徒数は、各々の生徒へ個別指導をするにはかなり難しい数で、いわば不可能に近いことです。更に、自由英作文評価はかなり時間のかかる仕事であり、特に、何百人もの生徒を受け持っていれば、自由英作文教にするとなんどの数になります。

第二に更に重要な要因として、自由英作文評価(採点)のできる人員が少ないという問題があります。また、1998年以来私が一緒に仕事をしてきた日本人英語教師(ALTs = Assistant Language Teacher)の多くが、自由英作文の採点はネイティブ・イングリッシュ・スピーカー(NESs = Native English Speaker)たちがする方がよいと考えているようです。しかし、日本で英語を教えているネイティブスピーカー達は、必ずしも英語教授(NETs = Native English Teacher)の資格を保有しているとは限りませんし、また、英作文添削のトレーニングを受けているとも限らないのが現状です(作文の評価に関しては、Cushing Weigle, 2002)。このような中で、日本におけるネイティブ・イングリッシュ・スピーカーの最大雇用機会であるJETプログラムに参加し、日本で英語教授に携わったALTに関して次のような報告があります。Finkleによると、年にJETプログラムに参加したALTで、TESLやTEFLの資格を保有していたのはわずか7%以下であったということです(2003)。また、JETプログラムはその好待遇から、「英語教授の才能がなく、日本に関する興味もほとんどない」人々をひきつけているという指摘もあります(Ota; 1997)。小学校における英語教育が始まり、ALTの採用数が増加するにつれ、こういった問題はますます大きくなると予想されます。

第三の理由としては、学校教育の中で1週間におけるライティング指導・練習に当てられる授業時間数が十分でないことがあげら

れます。これは、日本の教育がリーディングや文法、リスニングに重点をおいた授業カリキュラムだからからです。このため、文部科学省がコミュニケーションライティングに重点をおいた新英語カリキュラムを推奨しているにもかかわらず、自由英作文の授業が軽視されてしまうことが多いのです。また、英語教師が直面する問題としては、文部科学省の認定する教科書リストには、自由作文専用の教科書が含まれていないということです。認定文法教科書の中には、英作文について触れられているものもありますが、「文法・文体、修辞に関して誤ったアドバイス」を与えたり、「手紙や要約を重要視していない」との指摘もあります。(Ross, 2002)

上記に色々な問題点をあげましたが、実は、1ヶ月に最低2時間のライティング授業時間を割くことができれば、この状態でも生徒達に英作文を教えることができるのです。EFLの英作文添削・採点やカリキュラム作成の経験がない場合でも、インターネットを使った英作文自動添削アプリケーションである【Criterion】を使えばいいのです。【Criterion】は100題以上の問題の中から選ぶ事ができ、生徒は自分の英作文を送信提出してから30秒以内で採点され、詳細なフィードバックと得点を得られるだけでなく、各得点レベルの見本作文も受け取ることができます。我が校の2年生は、1年間で【Criterion】の10題のTOEFLトピックに取り組み、これらのフィードバックを利用して飛躍的な進歩を遂げました。

## ■ 智辯学園和歌山高等学校の【Criterion】利用事例: 英作文カリキュラム

本校では、英作文指導とタイピングの練習を合わせた授業をした後に、【Criterion】を使った10回のクラスをする英作文のためのカリキュラムを組んでいます。95%以上の生徒が、Z会やベネッセの全国模擬試験の自由英作文問題において、全国平均を大幅に上回る成績を収めました(図1、図2参照)。このことから【Criterion】は本校における英作文プログラムに必要不可欠なものとなっています(英作文クラスには、自由英作文、文章要約、過去問題対策を含む)。

### 1. 自由英作文

本校では毎週、英文表現における流暢さやスピードの訓練を目的として、10分の制限時間で自由英作文の練習をしています。2学期以降はこれを更に発展させ、ダイアログ・ジャーナルリング(生徒間で、書いた英作文を交換しお互いにコメントを与え合うこと)をしています。生徒は毎回、書いたトピックと10分間に書いた単語数を記録していきます。10分間で70から90語を目標としています。この自由英作文は成績評価の対象には入れていませんが、生徒が書き終えたら教室を回り、その作文を見て文法や内容に関する一般的なコメントを与えています。

### 2. Story Response

5分から10分のシンプルかつ心温まる英語の物語を一度聞かせて、以下の問いに答えさせます。

1. How did the story make you feel?
2. What is the message of the story?

年間を通して、これらの問いは変わりません。聞かれる問題があらかじめ分かっているので、生徒は安心して新しい物語の理解に集中することができ、要約の練習をしながらExtensiveなリスニング力の向上を図ることを目的としています。まず、ここではExtensiveリスニング(Macro/ Main idea listening)とIntensiveリスニング(Micro/ Detail/ Fact listening)の2つの違いをはっきりさせておく必要があります。生徒はExtensiveリスニングを課された場合、パニックに陥ることがあります。これは、耳に入ってくるすべての単語を理解しようとして、さらには訳して理解しようとするためです。実際の入試の場面では、辞書もなく、質問する教師も友達もいないわけですから、生徒の忍耐力を養うことは重要になってきます。つまり、生徒に必要なものはExtensiveリスニング能力であり、文章の流れを掴む訓練が必要になるのです。

生徒には、これらの物語(本校では年間約7つの物語を使用)に関する質問に解答する前に評価採点基準について説明を与えます。これにより、生徒は採点基準を踏まえて答えを書くことができます。採点基準は、その時々により変更され、大学入試に見られるような「60語前後で答えなさい」や「2~3段落で解答しなさい」、「最低でも80語で」や「250~300語で答えなさい」といった指示を与えます。我が校では、指示どおりの解答をしない場合は20%の減点と設定してあるので、生徒は設問と指示を注意深く読む習慣もつきます。

### 3. 大学入試過去問題

本校の生徒は、期末試験やZ会・ベネッセ・駿台などが実施する模擬試験で、制限時間内に解答する自由英作文問題を解いています。加えて、年間最低5題の大学入試過去問題を与えています。これらの小論文は教師が業者による採点で、生徒は再考・書き直しはできません。

### 4. 【Criterion】

上記のペーパーベースの英作文指導も、もちろん生徒のライティング力の向上に役立つことは確かですが、もっとも効果的な成果をもたらしたものはETSの【Criterion】の導入です。われわれの“紙”ベースの指導は「結果重視型」であるといえます。これは、生徒が書いた自由英作文を評価し、返却するサイクルで、この際に、生徒の書き直しもありません。従ってこの方法ですと、生徒達はライティング能力を磨き上げる手段がないわけです。

一方で【Criterion】によるエッセイ・ライティングは、ESLやEFLの教育関係者(Reid, Kroll, Leki, Ferris & Hedgecock)が支持する「過程重視型」のライティング指導が可能になります。【Criterion】を使った授業では、生徒達が下書きを書いている間、提出する文章を作成している間、そして書き直している際にも、教師が教室を回りながら指示を与えられるという利点があります。智辯学園のライティングの授業では1回70分授業を2名の教員が受け持つので、50名いるすべての生徒と言葉を交わし、的確な指示を与えることが可能です。

本校にとって、【Criterion】はうれしい教材ですが、英作文の自動採点に対して懐疑的な英語教育関係者の方もいらっしゃると思います。Faculty Shackは【Criterion】について以下のように述べています。

“...フル装備の文法チェッカーであり、生徒の作文を文法の傾向とともに保存する優れたデータベースであること以外に言える事は、このプログラムの校正機能はかなり限られている。”  
(Faculty Shack, 2003; for more on tricking Criterion, see Powers)

残念ながら、この Faculty Shack の【Criterion】に対する評価は、生徒でなく、複数の教師による一度きりの検証に基づいています。私自身はETSでトレーニングされたスタッフではありませんが、この2年間に5,000本以上の自由英作文を読み、評価してきたなかで、【Criterion】の採点や文法、スペリングや文章構成に関してのフィードバックが自分の評価と一致しなかったことはほとんどありません。つまり、Faculty Shackらの調査結果とは対照的に、我が校の英語教師にとって【Criterion】は、表面的な間違いを添削する膨大な時間を節約でき、その時間を修辞法や内容重視の指導に充てることができるこれ以上ないツールです。【Criterion】が文章の論理的な流れに関する欠点は検知できないのは事実ですが、出題されたトピックに対しての解答がなされていない場合は、添削されません。(この場合、生徒はスコアを受け取れず、教師に指示を仰ぐようコメントが出ます。)先程、私は【Criterion】の出す添削結果に疑問を感じたことはほとんどないといいましたが、それでもやはり、【Criterion】を導入する前段階での英作文に関する教師による指導と、彼らの文章作成の課程における教師による指導は重要であると考えます。生徒達は、時として英作文についてどうしていいかわからなくなってしまうことがあります。このような時に必要となるのは、教師の的確な指導・指示なのです。

コンピュータによる採点プログラムを取り巻く議論が盛り上がることは、常にそれに携わるプログラマーや教育者を刺激し、結果として、より信頼性のあるシステムが生み出されていくであろうと思います。智辯学園和歌山高等学校では、いったん生徒が基礎を固めれば【Criterion】がライティング能力を飛躍的に伸ばすための訓練、適時のフィードバック、そして的確なアドバイスを与えてくれています。理想をいえば、今後、より多くの教師が【Criterion】を導入して、それぞれの研究結果を提供し情報を共有化することで【Criterion】を最大限に活用できればと思います。

**Figure 1:**  
Numbers indicate Chiben's percentage above national average (for 261 grade 2 students)

Z-KAI Exam: Free English composition question		
November 2000	November 2001	November 2002
JTE Paper instruction 8.3%	NET & JTE Paper instruction 9.7%	NET & JTE Paper & Criterion instruction 18.9%

**Figure 2:**  
Numbers indicate Chiben's percentage above national average (for 261 grade 2 students)

Benese Exam: Free English composition question	
February 2002	February 2003
NET & JTE Paper instruction 10.5%	NET & JTE Paper & Criterion instruction 13.7%

## References Cited

- \*Benoit, R. (2003). A Composition program using Criterionism. In JALT 2002 proceedings of the 28th Annual International Conference of the Japan Association for Language Teaching, Shizuoka, Japan, November 21-24, 2002. Tokyo: JALT. Forthcoming.
- \*Cushing Weigle, S. (2002). Assessing Writing. Cambridge: Cambridge University Press.
- \*Faculty Shack, (2003). ETS' Artificially Intelligent Paper Scoring Program. Retrieved July 2003 from <<http://www.facultyshack.com/article.php3?idnum=106>>
- \*Ferris, D. & Hedgecock, J.S. (1998). Teaching ESL Composition: Purpose, Process, and Practice. \*Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- \*Finkle, N. (2003). CLAIR employee: personal e-mail communication to author, July 2nd, 2003.
- \*Kroll, B. (1997). Second Language Writing, Research insights for the classroom. Cambridge: CUP.
- \*Leki, I. (1992). Understanding ESL Writers: A Guide for Teachers. New Hampshire: Heinemann.
- \*Ota, N. (1997). Jets Fly High in Japan's Schools. In Professionally Speaking Retrieved July 2003 from <[http://www.oct.ca/english/ps/december\\_1997/jet.htm](http://www.oct.ca/english/ps/december_1997/jet.htm)>
- \*Powers, D. et al. (2001). Stumping e-rater. Challenging the validity of automatic essay scoring. Retrieved December 2002 from <[http://www.ets.org/research/dload/powers\\_0103.pdf](http://www.ets.org/research/dload/powers_0103.pdf)>
- \*Reid, J. (1993). Teaching ESL Writing. Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice Hall Regents.
- \*Ross, P. (2002). Influences on L2 Writing: Entrance Exams. Conference paper presented at JALT 2002.

Year	ALTs reporting TESL/TEFL Certificate	ALTs reporting Teaching Certification	Total ALTs	IMPORTANT This data is derived from the ALTs application form from certain boxes they check. Since this self-reported information is not verified by CLAIR/the JET Program,
2003	201(7%)	304(10%)	3057	

2002	178(6%)	314(10%)	3093
2001	115(4%)	218(7%)	3097
2000	80(3%)	104(3%)	3096
1999	196(6%)	298(10%)	2912
1998	224(7%)	350(11%)	2955
1997	224(8%)	354(13%)	2738
1996	183(8%)	307(13%)	2426
1995	168(7%)	355(14%)	2471
1994	144(7%)	302(15%)	2072
1993	136(7%)	219(11%)	2068
1992	236(13%)	268(14%)	1888

some applicants may report TESL/TEFL/teaching certification that they do not actually have.

Furthermore, the definition of "TESL/TEFL/teaching" certification is unclear and may include applicants who have taken a one-week course, to a full M.A./M.Ed. in TESL/TEFL. This information represents: "JETs still on the Programme and do not reflect the total number of JETs with teaching qualifications who have not renewed their contracts. In addition, the data is valid at the time of application and does not reflect the percentage of JETs who either gain qualifications between application and acceptance, and/or who earn those qualifications during their tenure on the Programme", although very few have the time or inclination to study long distance while working full-time jobs(Finkle, 2003)

1992-1999 data provided by Norman Eaton(n-eaton@clair.or.jp) CLAIR employee. Electronic letter to Rebecca Benoit, December 9th, 1999.

2000-2003 data provided by Nicola Finkle(n-finkle@clair.or.jp) CLAIR employee. Electronic letter to Rebecca Benoit, July 2nd, 2003.

レベッカ・ベンワはTrent大学で文化人類学(学士)と博物館学(修士)を専攻、取得し、McGill大学で外国語としての英語教育法を専攻、教員免許を取得。カナダとメキシコで第二言語としての英語を教えた経験がある。母国語は英語であるが、他にフランス語、日本語、スペイン語を話す。

平成10年、文部科学省のJETプログラムで来日、公立高校にて3年間主に大学入試対応の自由英作文とリスニングを教える。平成13年、智辯学園に赴任、以来高校2年生、3年生に大学入試対応の自由英作文とリスニングを教える。平成14年、智辯小学校併設にともない、小学校における英語教育プログラムを立ち上げ、小学生の授業も担当し今日に至る。

She can be reached by e-mail at: [beccabenoit@yahoo.com](mailto:beccabenoit@yahoo.com)



レベッカ・ベンワ先生には、去る7月23日(水)、東京で開催されました「TOEFL教育者セミナー2003夏」(CIEE TOEFL事業部主催)において、「アカデミック・ライティングとその教授法」というテーマに基づき、上記ツールを利用したケーススタディに関する発表をしていただきました。

[Back to Top](#) 



TOEFLは、エデュケーション・テストング・サービス(ETS)の登録商標です。

## 新シリーズ：ユーザー・レポート 「教室からの声」

### 第1回：Criterion(\*)ユーザー 金蘭千里高等学校・中学校

\*オンライン・ライティング自動評価ツール

今回からのこのコーナーでは、TOEFLテストの実施運営団体であるETSのプロダクトをご利用いただいている高等学校・大学での導入事例を現場の教室からその様子をお伝えいただきます。

ETSプロダクトとは、TOEFL-PBT(Paper-Based Testing)テストの過去問題を使った「団体向けTOEFLテストプログラム(TOEFL-ITP)」やインターネットに接続できる環境があればどこからでもアクセスができ、短時間で採点とフィードバックを自動で行う、ライティングの授業には欠かせない「オンライン・ライティング自動評価ツール『CriterionSM』」など、現在、日本国内のみならず世界の教育現場の皆様にご活用いただいているものです。

第1回目の今回はCriterionを導入されている大阪の金蘭千里高等学校・中学校のレポートです。

#### ■ 学校の特徴

大阪府吹田市にある中高六年一貫の共学校。創立以来、30人学級を基本とする少数精鋭主義で知徳体のバランスのとれた人間教育を実践してきた。毎朝の20分テストなどユニークなシステムと手間暇かけた教科・生活指導で、一学年140～150名の小規模校ながら、大学進学の実を上げている。特に、昨年度の「国公立医学部合格者占有率(サンデー毎日調べ)」で全国11位にランクされるなど、医歯薬系の合格実績には定評がある。

\* 金蘭千里高等学校・中学校ホームページは[こちら](#)



【イメージ：現在建設中の新校舎完成図】

[ページトップへ](#)

#### ■ 金蘭千里高等学校・中学校における英語授業の概要(2004年度)

学年	授業時間	授業内容
中1	週7時間 うち外国人授業1	3時間は1クラスを2分割した少人数授業。
中2	週6時間	3時間は1クラスを2分割した少人数授業。 放課後に希望者向けの外国人英会話授業あり。
中3	週7時間 うち外国人授業1	
高1	週7時間 うち外国人授業1	
高2	文系:週10時間 うち外国人授業1 理系:週7時間 うち外国人授業1	外国人授業では、パラグラフ・ライティングを実施。 外国人授業では、パラグラフ・ライティングを実施
高3	文系:週9時間 理系:週7時間	外国人授業は、文理とも放課後隔週の自由英作文補講のみ。

※オプションとして高1、高2時の夏休みに海外研修(英国 / イートン、ハロウ、ラグビーの各校)があり、約半数の生徒が参加する。英検4級を中2、3級を中3で全員受験、高校卒業までに少なくとも準2級を取得するよう奨励。また中3、高1ではTOEIC® Bridgeも受験させている。学校行事として暗唱・スピーチコンテストを毎年開催、外部の諸コンテストにおいても好成績を収めている。

[ページトップへ](#)

英作文指導はむずかしい。日本の高等学校での英語教育には避けて通れない難問が多々存在するが、パラグラフ・ライティングの指導とそれに付随する添削指導の問題はその代表的なものの一つである。本校では5年前に、それまで高一までだったネイティブ・スピーカー授業を高二にも拡大するにあたり、英会話の授業でなく、検定作文教科書 Polestar の該当セクションをベースとして、パラグラフ・ライティングの基礎固めを目指してもらうことにした。大学受験との関連で、高二時から国公立型の自由英作文指導が必要であり、それならば外国人講師による授業がより効果的という考えからである(それまでは日本人教員による高三の希望者むけ補講のみだった)。



金蘭千里高等学校・中学校 英語科  
北代 晋一(きただい・しんいち)先生

この試みは校外模試や大学入試の結果を見るかぎり一定の成果を収めたと思われるが、思わぬ問題も生じた。高二の英作文を担当した外国人講師が一年かぎりで交代する、という事態が度重なったのである。もとより原因の一つではないが、生徒全員(約150人)に対する添削指導の負担(もしくはその回避)が遠因になったことは否めない。そんな事情で、心身ともにタフなプロ教師の採用を求めるとともに、いっぽう添削担当者の負担を軽減する方策が何かないものかと、我々としても暗中模索の状態であった。

そのような折りに出会ったのが Criterion だった。当時の英語科主任が早稲田大学での講演会で智辯学園和歌山高等学校レベッカ・ベンワ先生の研究発表にいたく感銘を受けて帰阪、その中でこのシステムが画期的な新機軸として紹介されていたというのである。幸い同じ近畿圏ということで、学校見学も兼ねて二度も同校にお邪魔させていただき、先生はじめ同校の英語科スタッフから Criterion の効果のほど、授業での実践例などを懇切に説明を受け、本校でも十分導入して活用できるものだと確信を得ることができた。

その後校内での事前検討を経て、2003年度から正式に高二パラグラフ・ライティングの授業(週1コマ)で Criterion を導入することとなった。ただし初年度は、前期は英語エッセイの基礎的レクチャーと演習に専念し、Criterion の利用は後期9月下旬から始めることとした。また校舎解体・仮校舎移転の事情から、英語授業でのPC教室使用が月に1、2度しかできないといったもどかしい現実もあった。

そんな制約された条件のもとでスタートした Criterion 元年の様子を以下にざっと記しておきたい。

まず最初の授業(50分)は登録作業、システムの説明でほぼつぶれてしまう。うまく行かない生徒、勝手なことをする生徒が少なくない。教師1人で全員に対応するのは、まず無理であろう。我々は外国人講師1人、日本人教師1人の2人態勢だったが、それでもかなり大変だった(2年目は多少慣れたが……)。

その後、試行錯誤ののち一応定まった指導の流れは……

- エッセイのトピックの提示をHR教室での授業でおこなう。テーマのポイント、展開やまとめかた、使用語彙などのヒントを与え、第一稿の下書きをさせる。時間内に終了しない者は宿題として、次の時間までに完成させておく。
- PC教室での授業。下書きをもとにワードまたは Criterion のボックスに直接入力して送信、講評結果をもとに誤りの訂正、構成の推敲をする。可能ならばその授業時間中にもう一度送信する。終了しない生徒は宿題。推敲したものを自宅から送信させ、最低でもスコア3をとることを目標にさせる。
- こうした Criterion を使った(あるいはそれを念頭に置いた)授業とネイティブ教師独自教材の授業を交互にからめながらライティング授業を進めていく。

本校生徒の平均的学力から、トピックはおもに Middle School レベルのものを利用。昨年度4つのトピックについて書かせた最終的平均スコアは3.21(残念ながら目標のスコア3に達しない生徒も少なくなかった)。熱心な生徒は4~5を目指して何度もチャレンジしていた。英語を書くことに最初は抵抗を見せていた生徒も、Criterion プラス「自由日記(注)」の継続指導で、学年末にはかなりのことが曲がりなりにも英語で書けるようになった。参考までに、この学年の生徒は、2004年6月の駿台高三第1回全国模試の自由英作文問題で他分野に比べて平均1.3倍(校内比)の得点率を得ており、パラグラフ・ライティング授業の取り組みが多少なりとも成果を上げていると言ってよいのではないか。その一翼を Criterion が担っていることは言うまでもない。

#### (注)自由日記

日記用ノートを一冊準備させ、毎週100ワード以上のまとまった英文を書かせる。1本以上、何本でもよい。テーマは原則的に限定しない。身の回りの出来事、時事問題、随想など、何でも可。(初回に自己紹介、野外キャンプ実施後はその感想など、時宜を得た話題を指定することもある)  
とにかく書かせて、英語を書くことへの苦手意識をなくすことが主眼なので、隔週に提出はさせるが、細かい添削はあまりしない。教師が書き込むコメントは読後感、全体的なアドバイスが中心。

言わずもがなではあるが、Criterion 活用のメリットを挙げてみると、

- 英作文添削の負担が大幅に軽減する(特に基本的ミスについて)。
- 個人ではなかなかできないユニークな文体解析・構成分析がなされる。
- 何度も校正がきくので、ねばり強い努力、指導ができる。
- 分析とスコアがすぐフィードバックされるので自己評価でき、励みになる。

- レベル別に生徒の興味を惹く題材が豊富にそろっている。
- インターネット環境があれば、自宅でも利用できる。
- システム自体の目新しさが生徒のモチベーションにつながる……など多数。

乏しい実践からの感想ではあるが、若干の不満もある。

- 文法チェック、成績評価の精度はまだ発展段階かと思われる。
- エッセイの現物が最新のものしか残らないのが残念。
- どうやったらスコアが上がるのか、システム内のヒントを見てもかなり難しい場合があり、生徒のフラストレーションがたまることもある。
- 生徒の目先の目標である、大学入試問題の典型例に特化したバージョンもあれば、なおありがたい。(ところで日本語版は?)
- 理由のよくわからない警告マークがしばしば出る(システム関連?)……などいくつか。

以上が昨年度の概容である。昨年の経験・反省をもとに、本年度も高二の授業(担当講師は昨年と同じ)で、5月から Criterion を利用させていただいている。今年もまだ仮校舎住まいで十分な活用ができていないとはいいたいけれども、普通授業とはひと味違うアプローチが生徒の刺激になっていることは間違いない。課題としては我々ユーザーの側が利用法に習熟し、スキルアップを心がけ、日々の工夫をしっかりと図っていくことがまず一点。また Criterion のプログラム自体について、すでに完成度は充分高いと思われるものの、チェック機能の精度向上、使い勝手の進化を含めて、さらなるバージョンアップが大いに期待されるところでもある。こうした「ないものねだり(?)」も含めて、現場での実践研究を深めつつ、今後の Criterion の動向に興味深く見守っていきたいと考えている。

[ページトップへ](#)

©2004, CIEE All Rights Reserved.



TOEFLは、エデュケーショナル・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。

**ユーザーレポート「教室からの声」****Criterionユーザー 慶應義塾湘南藤沢中・高等部 英語科 藤田真理子先生**

このコーナーでは、ETS(\*)のプロダクトをご利用いただいている高等学校・大学の先生から、実際の授業の様態をレポートしていただきます。(\*ETS = TOEFLテストの実施運営団体)

ETSプロダクトとは、TOEFL-PBT(Paper-Based Testing)テストの過去問題を使った「団体向けTOEFLテストプログラム: [TOEFL-ITP](#)」や、インターネットに接続できる環境があればどこからでもアクセスができ、短時間で採点とフィードバックを自動で行う、ライティングの授業には欠かせない「オンライン・ライティング自動評価ツール: [Criterion](#)」など、現在日本国内のみならず世界の教育現場の皆様にも多くご利用・ご活用いただいているものです。

今回は、Criterionを導入されている**慶應義塾湘南藤沢中・高等部の藤田真理子先生**からのレポートです。同校は神奈川県藤沢市にある慶應義塾の中で最も新しい中高一貫教育の共学校です。生徒一人ひとりを大切に、基礎を確実に身につけるきめ細やかな指導を特徴としています。帰国生の割合は中等部で約20%、高等部で約25%と高く、異文化交流も盛んに行われています。英語教育では「英語について学ぶ」のではなく「英語で何かができるようにする」ことを目標に、プレゼンテーション・スピーチ・ディベート・エッセイ・ライティングなどをバランスよく指導を行っています。

**藤田真理子先生 プロフィール**

**現: 慶應義塾湘南藤沢中・高等部 英語科教員**

B.A. in English Language and Studies from Sophia University  
M.A. in TESOL from Teachers College, Columbia University  
Ed.D. in English Education from Temple University  
専門分野: Language attrition

慶應義塾湘南藤沢中・高等部のホームページは[こちら](#)

**Criterionの使用状況とその学習効果について****はじめに**

現在本校では高等部の生徒全員がCriterionを使用できる環境を提供している。本稿は、高校2年生(230名)を対象に2004年5月から2005年1月までの期間でCriterionをどのように使用してきたか、また生徒のアンケートとライティング担当教員の感想を通してCriterionの学習効果を分析することを目的とする。本高校2年生の英語の授業は3つのレベルに別れている。その特徴と使用したCriterionの種類は以下のとおりである。

レベル	生徒構成	教員	授業目的	使用している Criterion <b>トピック</b> の 種類
Alpha	帰国生中心	米国人	先行研究やデータに基づいた客観的な論文を書く	Grade11
Beta	一般生	日本人	アカデミックライティング+文法	TOEFL
Gamma	一般生	日本人	クリエイティブライティング+アカデミックライティング入門+文法	TOEFL

Criterionを授業にどのように組み込んでいるかはレベルにより異なっている。Alphaのクラスは高校1年生時でアカデミックライティングをすでに学習しているので、Criterionはその復習に使用した。一方、Beta・Gammaのクラスでは授業の発展やまとめとしてCriterionを使った。

[ページトップへ](#)

## 先行研究

Criterionの学習効果についての研究はまだ少ない。Benoit(2004)によるとCriterionは表面的な間違いを添削でき、彼女はその添削結果に疑問を感じたことはないという。また、Attali(2004)はアメリカ国内の6年生から12年生までの33,171人の生徒による作文を分析したが、Criterionのフィードバックは生徒たちが作文を推敲する時に役立ったという結論を出している。英語を第一言語としている生徒には学習効果があったという報告である。それでは、英語が第二言語である本校の生徒たちはCriterionのフィードバックを理解し、それを使って作文を推敲できるのだろうか。そしてCriterionによるフィードバックはライティング担当の教員が与えるものと同じような効果があるのだろうか。

## 生徒のアンケートの結果

2005年1月にアンケートを実施し、Criterionの使用状況を調査した。

### 1. レベル別によるCriterionで書いたトピックの数と提出数の平均

レベル	書いたトピックの数	提出数(全部で)
Alpha(68名)	5.3	9.7
Beta(80名)	3.1	7.7
Gamma(64名)	1.9	1.9

英語力が上位であればあるほど、Criterionの使用度が増している。また、AlphaとBetaの生徒はひとつのトピックに対して少なくとも1回は書き直しをしており、ひとつのトピックに対して2回は書いていることがわかった。一方、Gammaの生徒はほとんど一度も書き直しをしていないことがわかった。

### 2. Criterionのいい点は何か(レベルごと 上位3つ)

レベル	評価
Alpha	瞬時にして評価が返ってくる(81%) 自宅でもできる(79%) 教員のコメントもついてくることがある(53%)
Beta	瞬時にして評価が返ってくる(89%) 自宅でもできる(70%) 教師以外の客観的評価であること(36%)
Gamma	瞬時にして評価が返ってくる(69%) 自宅でもできる(44%) 教師以外の客観的評価であること(36%)

どのグループも「瞬時にして評価が返ってくること」と「自宅でもできる」点が良い点であると答えた。一方、Alphaは「教員のコメントもついてくることがある」という点が良い点とし、BetaとGammaは「教師以外の客観的評価であること」が良い点であるとしている。この点は非常に興味深い点であり、後でその違いの原因について詳しく述べたい。「英文を書くmotivation/confidenceにつながる」を選んだ生徒は全体の24%いた。

[ページトップへ](#)

### 3. Criterionの悪い点は何か(レベルごと 上位3つ)

レベル	評価
Alpha	フィードバックが不適切な時がある(79%) フィードバックが理解できないことがある(63%) すべての文法のエラーをチェックできない(53%)
Beta	フィードバックが理解できないことがある(60%) フィードバックが不適切な時がある(44%) すべての文法のエラーをチェックできない(39%)
Gamma	フィードバックが理解できないことがある(63%) すべての文法のエラーをチェックできない(28%) フィードバックが不適切な時がある(22%)

Alphaの生徒はフィードバックの不適切か適切であるかを判断できる。このことはCriterionの未完成なツールであることを指摘していると言えよう。一方、BetaやGammaの生徒はフィードバックがすべて英語で書かれているため、フィードバックそのものを理解できずに苦しんでいることがわかった。Criterionはすべての文法のエラーをチェックすることはできないし、文法のエラーは指摘したとしても、それをどのように訂正すればいいのかまでは教えてくれないという点がCriterionの欠点であるようだ。

その他、「サイトの反応が遅く、動作が遅い」「量を多く書けば簡単に6が取れる」「間違っていないのに間違っていると指

摘されることがある」「内容についての注意が浅い」「Criterionの評価はあてにならない」といった意見もあった。

4. Criterionのフィードバックのうち、どの部分が役に立ったかを1(全くそう思わない)、2(そう思わない)、3(普通)、4(そう思う)、5(強くそう思う)で評価した結果の平均

レベル	Alpha	Beta	Gamma
Grammar	3.24	<b>3.76</b>	<b>3.30</b>
Usage	2.79	3.44	2.61
Mechanics	3.07	3.15	3.17
Style	2.63	3.28	3.19
Organization&Development	2.32	2.61	3.03
教師のコメント	<b>4.19</b>	2.81	2.97

Alphaの生徒にとって教師のコメントが最も役に立ったらしい。Criterionよりも生身の人間のコメントの方がよいというのはあまりにも当然ではあるが、BetaやGammaの生徒は文法のフィードバックが最も役にたち、教師のコメントはあまり役に立っていなかったようである。これは2の「Criterionのよい点」でも触れたが、教師がどのようにCriterionを使ったかがポイントであるようだ。Alpha担当の教師は生徒がCriterionで書いた作文を絶えずチェックし、Criterionがチェックできなかった文法のエラーや内容・構成に関してのコメントや10段階での評価もCriterion上に書いて送っている。Alphaの生徒と教師との間にCriterionを通して英文についての「対話」があった。

また、Alpha担当の教師は生徒にCriterionのフィードバックをノートに書かせていた。ノートを4つに区切り、grammar, style, mechanics, usageでどのようなフィードバックがあったかを記録させ、文法で誤りを指摘された箇所があれば正しく書き直すといった作業をさせていた。ただCriterionはすべての文法の誤りをチェックできないため、結局は文法の誤りを正すのは教師の役目になっていた。

一方、BetaやGammaの教師はCriterion上ではなく、書いた作文を印刷させてその上にコメントしていた。これはコンピューターを使っているものの、作文を課題として出しそれにコメントを書くという従来の指導法と同じである。

[ページトップへ](#)

## 結論

第一にCriterionはライティングをproductではなくprocessという立場にたったツールである。本校の生徒たちに英文を書くという動機付けを多少なりとも与えてくれた。特に帰国生のように英文のエッセイを書くことに慣れている生徒にとって、Criterionは全体的に好評であった。「先生のコメントを見てreviseし、その後finalを提出できるのは良かった。普通だと先生のコメントはfinalの後にしかもらえないので」という生徒の意見は興味深い。第二にCriterionは依然として未完成なツールである。確かに5つのパラグラフの作文を書く練習にはなり、ある程度のフィードバックを得ることができるが、文法の誤りを正しく指摘したり、それをどう修正すればいいのかといったフィードバックがないため、教師の負担はあまり軽減されない。

しかし、教員の使い方次第ではCriterionの未完成な部分を補うことが今回のアンケート調査で可能であることがわかった。「何よりも教員のコメントの方がCriterionのコメントよりも効果的である」という点を再認識することができた。今後はCriterionの操作性を高め、日本語によるフィードバックができるようになればBetaやGammaの生徒も使いやすくなるだろう。また利用する教員側としてもCriterionをさらに効果的なものにする指導法を探っていきたい。

## --References--

- Attali, Y. (2004, April). Exploring the Feedback and Revision Features of Criterion. Paper presented at the National Council on Measurement in Education (NCME), San Diego, CA.  
Benoit, R. (2004). 自由英作文とCriterion. [TOEFL mail magazine, Vol. 18.](#)

[ページトップへ](#)





# TOEFL<sup>®</sup> Mail Magazine

創刊4周年記念特別号

ciee

■ 大学トップに聞く ■ 教室からの声(TOEFL-ITP編) ■ 教室からの声(Criterion編) ■ 特別企画 ■ 必見！耳より情報  
 ■ セミナー報告 ■ e-Language in Action ■ 言葉の玉手箱

[トップに戻る](#)

## ■ ユーザー・レポート「教室からの声」 Criterion 利用校

### 福岡県立香住丘高等学校

このコーナーでは、TOEFLテストの実施運営団体であるETSのプロダクトをご利用いただいている高等学校・大学での導入事例を、現場の教室からお伝えします。

ETSプロダクトとは、TOEFL-PBT(Paper-Based Testing)テストの過去問題を使った「[団体向けTOEFLテストプログラム: TOEFL-ITP](#)」や、インターネットに接続できる環境があればどこからでもアクセスができ、短時間で採点とフィードバックを自動で行う、ライティングの授業には欠かせない「[オンライン・ライティング自動評価ツール: Criterion](#)」など、現在日本国内のみならず世界の教育現場の皆様によくご利用・ご活用いただいているETS開発のテスト・教材です。

今回はCriterionを導入されている福岡県立香住丘高等学校からのレポートです。

#### 学校の特徴

福岡市東区にある開校21年目の県立高等学校。開校時福岡県で最初の普通科英語コースが設置され、当初より福岡県の英語教育推進校としての期待が寄せられた。平成6年度に英語科に発展し、より専門性の高い英語教育の研究と推進に寄与してきた。平成15年度に文部科学省よりスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)に指定された。海外経験等のない生徒が多くを占める中で、国際人としての素養を養うとともに、

高度なコミュニケーション能力を身につけ、総合的な学力を伸ばさせている点で、県内外で高い評価を受けている。全国レベルでのエッセイコンテスト・スピーチコンテスト・スキットコンテスト等でも実績をあげている。



>>香住丘高等学校のホームページは[こちら](#)

#### Criterion 利用の経緯

SELHi 指定を受け、本校では英語のスピーキング・ライティング能力の向上に係る指導方法及び評価方法の研究開発を行っている。特にクリティカルライティングの効果的な指導に係る研究の一環として、平成16年3月よりCriterionを英語科2年生・3年生が使用している。使用しているCriterionトピックの種類はTOEFLである。本稿では、現3年生の指導の経緯を報告したい。

##### (1) 1年次第3学期～2年次第1学期(2004年3月～2004年7月)

週1回「総合的な学習の時間」を利用して授業を行った。この時期は操作に慣れることを目的とした。スペルチェッカーを利用し、制限時間は設定しなかった。Criterionが示すScoreの具体例を示してから書き直しに取り組みせるとScoreが上がった。クラス内で高いScoreを出した生徒の作文をクラス全体に

提示し、具体的に良い点・改善点を説明した。5月以降は骨子を作り、展開方法を考え、必要な語彙を事前に調べてからタイプする方法を取った。そうすることで、1時間に2回提出が可能になり、初回提出時から高 Score が出るので、生徒の取り組みも積極さが増した。

**Assignment Topic : Group Member or Leader**

	Score1	Score2	Score3	Score4	Score5
3月15日	19人	11人	1人		
4月12日	11人	24人	3人	1人	
4月19日	2人	25人	9人	3人	1人
4月26日	3人	14人	17人	4人	2人

**Assignment Topic : Change in Your School**

	Score2	Score3	Score4	Score5	Score6
5月24日	14人	15人	8人	1人	0人
6月21日	2人	10人	21人	6人	1人

**Assignment Topic : Reasons for Attending College**

	Score2	Score3	Score4	Score5	Score6
7月14日	2人	19人	11人	7人	1人

全英連英作文コンテストに全員取り組ませるために、7月は類題に取り組ませた。今回は、事前のスペルチェック等を十分に行ってから提出するように指導し、提出回数を1回に限定した。

**全英連英作文コンテストの課題:**

**What I want to Do After I Graduate (301~600 words)**

**(2) 2年次第2学期(2004年9月~12月)**



この時期の指導は、1つのトピックに対して提出回数に制限は設けず、授業中だけでなく、自宅からの提出も奨励し、Score5ないし6を出すことを目標とした。

また外国人指導助手によるパラグラフライティングの事前講義を行った。(1)効果的なIntroductionの書き方と基本的なエッセイ全体の構成について、(2)Conclusionの書き方について、(3)Outline writingについての講義を、

それぞれ下記の日程で実施した。さらにoutlineについて外国人指導助手が生徒一人ひとりに面談し個別指導を行った。またScore 5以下の生徒に対しても、外国人指導助手が個別指導にあたった。

**Assignment Topic : Playing and Winning**

	Score2	Score3	Score4	Score5	Score6
9月27日	2人	10人	13人	12人	2人
10月4日	0人	7人	11人	17人	5人

効果的なIntroductionの書き方と基本的なエッセイ全体の構成について講義を実施する。

10月18日 1人 2人 6人 21人 10人

16名 score upした。Conclusionの書き方についての講義を実施する。

#### Assignment Topic : Experience or Books

11月1日・8日 Outline writingについての講義を実施する。

	Score2	Score3	Score4	Score5	Score6
12月6日	0人	1人	9人	21人	9人
12月13日	0人	0人	1人	24人	15人

### (3) 3年次第1学期(2005年4月～7月)

3年次では「英語表現」(2単位)のうち1時間を使い、Criterionを利用した。第1学期の始めに[コースアウトライン](#)をしめし、事前に生徒に使用するトピックを知らせた。提出は自宅利用を含め、5回を限度とし、制限時間を35分とした。また、スペルチェッカーをはずし、文法ミスは可能な限り生徒に訂正させた。この時期になると、最初からScore 5を出す生徒が大半であり、4以下は1割前後であった。Score 5ないし6を出した生徒は、外国人指導助手や日本人教師からフィードバックをもらい、表現の自然さ、Coherencyに関して指導を受けた。

Assignment Topic1	Younger People Teaching Older People
Assignment Topic2	Money and Success
Assignment Topic3	Dorm Roommate
Assignment Topic4	Living Longer
Assignment Topic5	Hiring Employees
Assignment Topic6	Resources Disappearing
Assignment Topic7	Changes in the 21st Century
Assignment Topic8	Money on Technology

[↑このページのtopへ](#)

#### 指導教師から見たCriterionの有用性

1年半のCriterion利用を通して、教師が感じたCriterionの有用性は次のとおりである。

- (1) 1クラス一斉にライティングの指導ができること。
- (2) 生徒にパラグラフライティングのBasic Formatを確立させることができたこと。
- (3) 多くのトピックを利用したことで、生徒がエッセイを書くことに抵抗感がなく、書くことに慣れたこと。
- (4) GTECのライティングセクション等様々なテストスコアのアップにつながったこと。
- (5) 様々なエッセイコンテストに応募する際も類似したCriterionのトピックを利用したことで、効率的なエッ

セイ指導ができたこと。

- (6) 英検準1級の2次面接において、自分の意見を述べる設問がCriterionのトピックの内容と類似しており、ライティング指導がスピーキングの指導にも役だったこと。

[↑このページのtopへ](#)

## 生徒からみたCriterionの有用性

英語科3年生を対象にCriterionの有用性について、次のようなアンケート調査を実施した。( )内は、回答率である。

### Criterionに関する学習調査

Criterionを約1年半使いましたが、皆さんの意見を聞かせてください。

1. Criterionを使って英文ライティングを行いました。良かったと思われるものに○をつけてください。(いくつ選んでもかまいません)
  - (1) 自分のペースでライティングができる。(20%)
  - (2) コンピュータを利用するので、訂正が容易にできる。(70%)
  - (3) 提出すると即座にスコアが出てくる。(95%)
  - (4) コンピュータから、即座にスペルミスや文法ミスを指摘される。(87.5%)
  - (5) 何度も提出できる。(40%)
  - (6) 学校の授業内だけでなく、自宅からでも提出できる。(70%)
  - (7) ALTの先生から、ライティングの講義を受けたり、提出した英文エッセイに対して個人的に指導が受けられる。(10%)
2. Criterionと手書きのライティングを比べて、それぞれ優れていると思われる点を書いてください。
  - (1) Criterionが優れていると思われる点。
  - (2) 手書きが優れていると思われる点。
3. Criterionを使って得られた有益な結果に○をつけてください。(いくつ選んでもかまいません)
  - (1) 英文ライティングに抵抗感なく取り組めるようになった。(62.5%)
  - (2) 英文ライティングのスピードが増した。(65%)
  - (3) パラグラフライティングがうまくできるようになり、頭の中で起承転結を考える事ができるようになった。(70%)
  - (4) 英検準1級のライティングの準備に効果的であった。(32.5%)
  - (5) GTECのライティングスコアが伸びた。(25%)
  - (6) 英検準1級の面接に役立った。(12.5%)
  - (7) 英文ライティングだけでなく、日本語でも論理的に思考できるようになった。(27.5%)
  - (8) 特に役にたったという実感はない。(5%)

以上の結果で明らかのように、生徒は Criterion をライティング能力向上に有用であると感じている。特に、Criterion の利点として、「訂正が容易にできる」(70%)、「提出すると即座にスコアが出てくる」(95%)、「コンピュータから、即座にスペルミスや文法ミスを指摘される」(87.5%)、「学校の授業内だけでなく、自宅からでも提出できる」(70%)等コンピュータを利用した利点が有効であると考えている。また Criterion を利用した有益な結果として、「英文ライティングに抵抗感なく取り組めるようになった」(62.5%)、「英文ライティングのスピードが増した」(65%)、「パラグラフライティングがうまくできるようになり、頭の中で起承転結を考える事ができるようになった」(70%)等パラグラフライティングが上達したという結果を重視していることがわかる。また、この結果は、ライティングの能力差や総合的な学力の差で生徒をグループに分けても、同様の結果を生じ、ほぼ全員の生徒が有用性を認める結果となった。



アンケート項目の2番目にある Criterion と比較して手書きのライティングの有用性についての生徒の意見は、ほぼ全員が手書きの方が単語のスペルを正確に覚えるということであった。また、Criterion は内容に関する評価がないと指摘する回答もあった。

[↑このページの top へ](#)

## まとめ

約1年半 Criterion を利用したが、クラス全体に対して、一斉にパラグラフライティングの指導が行えることに関しては有効な手段であることは間違いない。しかし、内容の指導や、文体に関する指導などは教師の指導を補完して行わなければならない。さらに効果的に Criterion を利用するためには、高校3年間にわたるライティング指導全体についてさらに研究する必要がある。

(ご寄稿: 同校英語科 永末 温子先生)

[↑このページの top へ](#)

©2005 All Rights Reserved.